

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 自ら学び、よりよい生き方を目指す生徒を育てます。(知)
- ともに学び、互いに認め合う生徒を育てます。(徳)
- 生命を大切にし、健やかな心と体を作る生徒を育てます。
- 地域社会を理解し、社会の一員として貢献する生徒を育てます。(公)
- 広い視野をもち、国際社会を理解する生徒を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

人間関係形成能力・社会形成能力
自己理解・自己管理能力
課題対応能力
社会参画意識

具体化した資質・能力

- ・自分の意見を分かりやすく伝える力を育てます。 ・相手の意見を丁寧に聞く力を育てます。
- ・意見の違いや立場の違いを理解する力を育てます。 ・他人に働きかけ巻き込む力を育てます。
- ・現状を分析し目的や課題を明らかにする力を育てます。 ・目的を設定し確実に行動する力を育てます。
- ・ストレスの発生源に対応する力を育てます。 ・物事に進んで取り組む力を育てます。
- ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力を育てます。 ・新しい価値を生み出す力を育てます。
- ・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力を育てます。 ・社会のルールや人との約束を守る力を育てます。

中期取組目標

- 全職員が一丸となり、小学校関係者、保護者、地域とともに、「9年間で育てる子どもの姿」の実現を目指します。
- ①社会で生き抜く力を育成するため、キャリア教育・平和教育を柱とし、学校教育のあらゆる場面に取り入れます。
- ②「確かな学力」定着のため、ICT機器を活用しながら個に応じた支援・指導を実施するとともに、授業改善に努めます。
- ③「生徒会憲章」を柱とし、生徒の自尊感情・人権意識を高め、他者と尊重し合う生徒を育成します。
- ④生徒の自治活動を推進し、自主自立の精神を養います。
- ⑤地域とのつながりを大切にし、地域に貢献できる生徒を育てます。
- ⑥信頼される学校を目指し、職員相互が啓発し合い、市民感覚を磨いて学校組織の改善と活性化を推進します。
- ⑦生徒・保護者・地域との相互理解をはかりながら「働き方改革」に取り組み、職員集団がより力を発揮できるよう努めます。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 授業改善 | ①単元ごと、授業ごとのねらいを生徒と共有し、見通しをもって主体的に学ぶ姿勢を引き出す。 ②特別支援教育の視点を取り入れたわかりやすい授業を目指す。 ③ICT活用、主体的・対話的で深い学びの共通理解を進めるため、教科の枠を超えた授業研修を実施する。 |
| 担当 | 学習計画係 |

学力向上に関わる本校の状況

令和4年度

①指導と評価の一体化を図ることで、生徒が主体的に学ぶ授業作りができてきている。
②教室での授業における個に応じた支援はできてきているが、生徒のニーズの多様化に応えられる授業作りについては課題である。
③ICTの活用は進んでいるが、情報モラルの指導の継続が必要。教科を超えた指導法の交流をもっと図っていけるとよい。

今年度の目標

(1学年)基礎・基本を身に付け、人の話を聞いて理解する力を育てます。
(2学年)自分に合った学習目標を設定し、目標に向けて主体的に努力する姿勢を育てます。
(3学年)将来の展望をもって、基礎・基本を活用し、自ら学ぼうとする姿勢を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- ①単元ごと、授業ごとのねらいを生徒と共有し、見通しをもって主体的に学ぶ姿勢を引き出す。 ・グランドデザインを活用し、見通しをもった学習活動を展開する。 ・単元ごとの目標や、小単元の学習内容を提示し、学びの見通しをもって主体的に学ぶ姿勢を引き出す。
- ②特別支援教育の視点を取り入れたわかりやすい授業を目指す。 ・一人にとってよいことは、全体にとってよいことと捉え、特別支援教育についての研修をもとに、計画・実践する。
- ・個々の特性に応じた声かけや、学習をもとに、誰もが分かりやすい授業を目指す。
- ③ICT活用、主体的・対話的で深い学びの共通理解を進めるため、教科の枠を超えた授業研修を実施する。 ・一人一台端末を活用した、個別最適化、協働的な学びについて、研修をもとに計画・実践する。
- ・メンターチームを活用し、授業研修を実施し、情報を共有しながら授業力の向上を目指す。

下半期

- ①単元ごと、授業ごとのねらいを生徒と共有し、見通しをもって主体的に学ぶ姿勢を引き出す。 ・グランドデザインの実践をもとに、評価・改善を確実にし、次年度へ向けた取組につなげる。 ・単元ごとの目標や、小単元の学習内容を引き続き提示し、主体的に学ぶ姿勢をさらに引き出すための評価・改善を行う。
- ②特別支援教育の視点を取り入れたわかりやすい授業を目指す。 ・一人にとってよいことは、全体にとってよいことと捉え、特別支援教育についての実践をもとに、評価・改善を行う。
- ・個々の特性に応じた声かけや、学習をもとに、誰もが分かりやすい授業の実践について、評価・改善を深める。
- ③ICT活用、主体的・対話的で深い学びの共通理解を進めるため、教科の枠を超えた授業研修を実施する。 ・一人一台端末を活用した、個別最適化、協働的な学びについて、実践を深め、評価・改善に生かす。
- ・メンターチームの活用から実践へつなげ、授業研修を通して全体の授業力向上を目指す。

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 人権教育 | ①職員への人権研修、生徒への講演会や講話の充実を図り、すべての教育活動の中で、人権尊重の教育を推進する。 ②「生徒会憲章」「平和教育」を柱として、互いのよさを認め合い、高め合う取組を行う。 ③特別活動や教育相談を通じて生徒に寄り添い、自尊感情を高めていく。 |
| 担当 | 人権教育担当 |

豊かな心に関わる本校の状況

学校評価アンケートより（生徒）

学校評価アンケートより（保護者）

・生徒に寄り添い、温かい声かけをここ数年心がけ、年々自己肯定感・自己有用感の高まりが認められる。
・人権研修を職員向けに行い、職員の人権意識は向上している。人権についての学習を行い、生徒の人権意識の向上にもつながっている。
・道徳の授業や評価についての研修を行い、道徳的な見方、考え方、実践力が年々身につけてきている。
・あいさつを進んでできている生徒もいるが、全体としての意識はそこまで高まっていない。
・物事の善悪をきちんと判断したり、目標達成に向けて粘り強く取り組んだりする気持ちを育てていきたい。
・学校での取組を保護者・地域などに周知し、学校運営協議会などの活用も検討しながら、連携して生徒の人権意識の向上に努めていきたい。

今年度の目標

職員の人権意識の向上と人権尊重の教育を日々実践する。特別活動や横浜の時間との結びつきを高め、自尊感情の向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- ・職員の人権意識の向上のため、人権についての研修を行う。
- ・「生徒会憲章」を日常の活動と結び付け、特別活動の充実を図る。
- ・「平和教育」を柱とした横浜の時間では、平和講話などを通して、人権意識の向上や互いのよさを認め合い、高め合う活動を取り入れる。
- ・特別活動や教育相談など、生徒と向き合う時間を大切にし、生徒理解をもとにした、生徒に寄り添う姿勢や温かい声かけを実践する。

下半期

- ・実践についての振り返り、評価・改善をもとに上半期の取組をさらに高める。
- ・生徒の人権意識のさらなる向上を目的とし、人権講話や人権についての学習を行う。
- ・自己肯定感や自己有用感の向上を目指し、学校行事を通じた生徒との関わりを大切にする。
- ・自己理解や社会参画意識の向上とともに、自尊感情を向上させることを目的とし、「キャリア教育」を柱とした横浜の時間の充実を図る。
- ・学校での取組を保護者・地域などに学校だより等を通じて周知する。

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 健康教育 | ①新体カテストの結果をもとに、生徒一人ひとりが体力向上の課題意識や目標をもてる取組を行う。 ②防災、事故・ケガの防止等の保健安全、喫煙防止、薬物乱用防止、食育等の健康教育に関する授業を実施する。 ③生徒会活動や授業を通じ、生活習慣の改善・向上を図る。 |
| 担当 | 体力向上推進・食育担当 |

健やかな体に関わる本校の状況

体育・健康に関する実態(2022年度新体カテストアンケート調査結果より)

- ・朝食の接種率は77%で前年度の76%より上回っていた。睡眠時間は6時間～8時間と回答した生徒は61%で前年度の平均62%より下回っていた。
- ・運動時間も2時間以上と答えた生徒は22%で、前年度の34%より下回っていた。生活リズムに関してはコロナ禍の影響からまだ回復しきれないのではないかと感じる。
- ・2022年度の新体カテストの結果はすべての学年で全国平均より下回る結果となった。全体的なレベルアップが必要で特に劣っている生徒の重点アップが必要とのこと。全身の持久力を高めるトレーニングを積むと全体のレベルアップに繋がるとの助言を受けた。
- ・健康面では歯の健康状態は良好な生徒が多かった。DMF指数が本校は0.2で、横浜市の平均が0.5なのでかなり下回り、良い状況であった。

今年度の目標

新体カテストの平均がどの学年も全国平均並みになるように、トレーニングを進めていきたい。良好な歯の健康状態を維持できるように生活習慣の定着を進めていきたい。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 避難訓練などの機会を生かし、保健・安全についての意識向上を図る。
- 身体計測や健康診断を生かし、自身の健康について見直す機会を大切にする。
- 体育祭に向けてクラスでの大縄跳び練習をする。
- 昼休みでの屋外での活動を進める。
- 新体カテストの自己分析し、自分の苦手な分野を知る。

下半期

- 体育祭へ向けた取組を充実させる。また、取組について評価・改善を行い、次年度の計画の充実につなげる。
- 新体カテストの総合評価からワンランクアップを目指した取り組みをする。
- 保健委員会による生活習慣の調査から運動習慣や朝食、睡眠などの実態調査をする。